いたくら

2024
10

ITAKURA HOUSE

特集

多様なライフスタイルを支える板倉

アトリエ・ワン
九州産業大学松野尾研究室／住幸房
里山建築研究所
スタジオリンクス
たかはし設計
丹陽社
東海林建築設計事務所
峰木材

多様な ライフスタイルを 支える板倉

特集

サスティナブルな自然な暮らしだったり、
趣味を楽しむ暮らしだったり……。
自分らしいライフスタイルを送るために
板倉を選んだ住まい手達。
そこには、どんな環境でもどんな暮らし振りでも
しっかりと受け止め、支えてくれる板倉の
懐の広さと自由さが見えてきます。

c/a/s/e/1

“新たなライフワーク”と“自分でできる範囲の生活”を叶えるための終の棲家

「**髭丞家**（ますけや）」（和歌山県・かつらぎ町）

様々な出会いがあって和歌山県かつらぎ町に移住し、
終の棲家を建てた豊原さん。規模こそ小さな板倉の住まいですが、
豊原さんのライフスタイルそのものであり、
新たなライフワークのベースキャンプでもあります。

文／平山友子　撮影／齋藤さだむ

木立の中に建つ小ぶりな板倉。この場所は地域の中でも風光明媚で、元は四季折々の景観を楽しめる観光施設があった。

いたくら ITAKURA HOUSE
2024年 No.10

特集 多様なライフスタイルを支える板倉

01 case/1 “新たなライフワーク”と“自分でできる範囲の生活”を叶えるための終の棲家
「髭丞家」（和歌山県・かつらぎ町）

07 case/2 高野山の麓で創業76年。建て主、大工との連携で新たな活路を拓く製材所
峰木材（和歌山県・かつらぎ町）

10 case/3 自然の力を生かす省エネの板倉で、趣味を満喫
「S邸」（和歌山県・九度山町）

14 case/4 オーガニックな暮らしとライフワークの実践の場でもある住まい
「板倉邸」（愛知県知多郡）

19 case/5 畑を耕し、手づくりを楽しむ。ていねいな暮らしを包む板倉の家
「K邸」（愛知県瀬戸市）

24 case/6 週末を楽しむ、板倉のセカンドハウス
「糸島ダーチャプロジェクト」（福岡県糸島市）

26 case/7 ナチュラルな北欧デザインで、板倉ライフの幅を広げる
「比叡平の家」（滋賀県大津市）

31 case/8 農ある暮らしが楽しめる長屋
「春風台の長屋」（茨城県つくば市）

36 case/9 緑に映える赤い家。地域に開けた町営住宅
「八神里山住宅」（島根県飯南町）

世界板倉遺産　第八回

41 「北海道・上ノ国のタタミグラ」

46 板倉の家は私達がつくります

55 『いたくら』創刊にあたって

木の国・紀州に創業し、3代目となる峰木材。現在はこの地域で唯一の製材所です。蓄えてきた多種多様な木材と技術力で、地域に根ざす新たな製材所の在り方に挑戦しています。

c/a/s/e/2

山と町をつなぐ仕事

高野山の麓で創業76年。建て主、大工との連携で新たな活路を拓く製材所

峰木材（和歌山県・かつらぎ町）

文／平山友子　撮影／齋藤さだむ

台車で大径のスギを挽く峰裕人さん。父の佳久さんの時代には原木を自分達で伐採していた。今は近くの森林組合から購入している。

自然の力を生かす省エネの板倉で、趣味を満喫

「S邸」（和歌山県・九度山町）

退職後、終の棲家を板倉で建てたご夫婦。
できるだけ環境に負荷をかけず、
自然の力で快適に暮らせる工夫を凝らした家で、
それぞれの趣味を楽しむ暮らしを満喫しています。

文／平山友子　撮影／齋藤さだむ

c/a/s/e/3

右／広々としたリビング。右手には増築したサンルームがある。施錠できるガラリ戸から風を入れ、吹抜け上部の格子を通して２階に流す。
上／エンジニアだった夫は、自然環境に負荷の少ない暖房器具を探してロケットストーブを選んだ。これ１台で家中が暖まるとのことだ。

c/a/s/e/4

オーガニックな暮らしと ライフワークの 実践の場でもある住まい

「板倉邸」（愛知県知多郡）

文／平山友子　撮影／齋藤さだむ

広々としたリビングに豪快な木組みが映える。ワークショップなどで多くの人が集まることを想定している。木材は徳島の中千木材から。

オーガニックと建築に関わる仕事をさらに深めていく場として、
終の棲家を板倉で建てたご夫婦。
板倉の家は２軒目となるご夫婦にとって、迷いのない選択でした。

文／平山友子
撮影／齋藤さだむ

畑を耕し、手づくりを楽しむ。ていねいな暮らしを包む板倉の家

「K邸」（愛知県瀬戸市）

畑を耕し、自身の手で衣住を繕う。住まい手のセンスで彩られた板倉からは、しっかりと地に足をつけた、ていねいな暮らし振りが伝わってきます。

和に偏りすぎないシンプルな小住宅。住み手が選んだクリ材のキッチンとテーブルが板倉の室内に調和している。

こげ茶に塗装したスギ板の外壁と切妻屋根のシンプルな外観。四隅のコーナーは白く塗装してアクセントとしている。

週末を楽しむ、板倉のセカンドハウス

「糸島ダーチャプロジェクト」（福岡県糸島市）

仕事終わりに立ち寄ったり、週末は野菜を育てたり、二拠点居住用の板倉のダーチャ。
建設過程では学生達の板倉構法を学ぶ場として、DIYのワークショップも行われました。

c/a/s/e/6

文／松野尾仁美
（九州産業大学 建築都市工学部 住居・インテリア学科）
撮影／池尾拓（住幸房）

福岡県糸島市にセカンドハウスを建築したいと考えるクライアントから相談を受けたのは、２０１６年の夏頃であった。仕事が終わったあとに立ち寄って一夜を過ごせ、週末には家族と過ごせる「ダーチャ」を建築したいという意向は当初からのもので、このプロジェクト名の由来となっている。ダーチャとはロシアの農地付き別荘をさし、現在のような大衆的ダーチャは第二次世界大戦中から大戦後の食糧不足の対策として法制化したものである。基本的には、平日は都市の職場近郊でのアパート生活、週末は田舎のダーチャで土に触れるという二拠点生活用に使われている。

初めて相談を受けた際、糸島という立地や、地に足をつけた暮らしをしたい、ものづくりスペースが欲しい、家庭菜園をしたいなどの要望から、「板倉構法」を強く勧めたことを覚えている。無垢の板を落とし込むというプリミティブでありながら合理的な構法と要望が合致したように感じられ、かつ、糸島の風景にも馴染むだろうと考えたためである。協会誌『いたくら』をお渡ししてしばらく経って、クライアントから本格的に検討したいと話があり、逆に学生と一緒に取り組めないかとお願いをして、糸島ダーチャプロジェクトはスタートした。

プロジェクトでは、アイディアコンペ

土間と一体的に使うことを想定した居間、台所・食堂の様子。宮崎県諸塚村産のスギ材の太鼓落としの梁が美しい。

ナチュラルな北欧デザインで、板倉ライフの幅を広げる

「**比叡平の家**」（滋賀県大津市）

日本の伝統構法である板倉を、
北欧テイストのデザインで仕上げた住まい。
板倉のインテリアの可能性を広げ、
住まい手のライフスタイルを豊かなものにしています。

文／浦川浩一郎（スタジオリンクス）
撮影／野村昌宏

吹抜けのあるリビング。大きく取った窓からの自然光で明るく開放的。

自転車小屋を兼ねた長屋門から２棟の長屋正面を望む。

c/a/s/e/8

農のある暮らしが楽しめる長屋

「春風台の板倉」（茨城県つくば市）

緑地と農地が一体に計画された住宅地に建つ板倉の長屋は、
各戸に菜園のあるメゾネットの集合住宅。
土間やペレットストーブでより農が楽しめる空間となっています。

文／北野祐子（里山建築研究所）　撮影／齋藤さだむ

上／西側。川沿いの谷に沿って道も家も並んでいる。左よりA棟、B棟、C棟3棟それぞれ異なる地元の工務店が地元の木材を用いて建設。
左上／道路に面する西面にはロジアを設けた。ロジアに架かる屋根は長さ9100㎜、深さ1820㎜。屋根や外壁など外部仕上げは、地域の石州瓦の建築を参照して赤くした。外構は住民が家庭菜園などとして手を加えていくことを想定。
左下／A棟より、3棟のロジアを見通す。ロジアは軒先で高さ2400㎜。ロジアは道路との間のバッファーであり、微気候をつくり出す環境的バッファーでもある。

c/a/s/e/9

緑に映える赤い家。地域に開けた町営住宅

「八神里山住宅」（島根県飯南町）

町の9割を森林が占める島根県飯南町に、板倉の町営住宅が誕生しました。
地域の自然に馴染む、気持ちのいい開放的な住まいです。

文／玉井洋一（アトリエ・ワン）　撮影／アトリエ・ワン

旧若狭家のタタミグラ
近世末頃の蒸籠板倉で石置き柾葺き。上ノ国町から
北海道開拓の村（札幌市）に移築復元されている。

世界
板倉
遺産

第八回

「北海道・上ノ国のタタミグラ」

北海道の南西部に位置する渡島半島、その日本海側にある上ノ国町に
タタミグラと呼ばれる板倉が現存します。日本の北限の板倉です。
地域性を色濃く反映するタタミグラからは、北海道の開拓の歴史や文化が読み取れてくるようです。

文・写真／**濱定史**（山形大学助教）

定価1000円（本体910円＋税）
JAPAN ITAKURA HOUSE ASSOCIATION

ITAKURA HOUSE